

★学校の教育目標	○よく考える子ども「問題解決力」 ○なかよくする子ども「人間関係形成力」 ○がんばりぬく子ども「計画実行力」 ○からだをきたえる子「自己管理能力」	★重点計画の概要 第4次日野市学校教育基本構想のプロジェクト
★目指す学校像（ビジョン）	「みんなの笑顔が輝く学校」「地域の風が行き交う学校」「子ども大人も安心して楽しく、活躍できる学校」	➡あさひっこ「安心できる学校」プロジェクト 子ども大人も安心して楽しく活躍できる学校づくり
【目指す児童・生徒像】	○課題を見つけ、解決する力を伸ばす児童 ○思いやりの気持ちを持ち、人間関係を築ける児童 ○自分の目標に向かって、最後までやり遂げる児童 ○運動に親しみ、自らの健康に向かう児童	【設定理由】 ・話を聞くことは好きである。自己肯定感を高め、表現することも好きになってほしい。 ・全体的に児童は穏やかで優しいが、困難なことに対して挑戦する気持ちを育てたい。 ○分かる・できる授業改善UD、居心地の良い学級・学校づくりSD、校内研究による表現力の育成 ◎多様な他者との交流による他者理解、地域と連携した学習 ○学校図書館を活用した探究的学習、児童の主体性を育む特別活動
【目指す学校像】	○児童が互いに学び合い、成長する学校 ○児童が安心して自分の良さを発揮できる学校 ○教職員がプロ意識を持ち、達成感を味わえる学校 ○学校・保護者・地域が連携し信頼し合う、開かれた学校	
【目指す教師像】	○明るく前向きで、心身ともに健康な教師 ○子どもを認め、褒め、励まして伸ばす、人間性豊かな教師 ○指導力向上のために努力する、プロ意識を持った教師 ○保護者・地域と連携し、児童の健全育成にあたる教師	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				取組指標	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿 学びの羅針盤・創造	【8+プロジェクト】 学びの変革 変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、やり抜く姿	○学校図書館司書と連携し、学校図書館を有効活用することで、児童が目的に応じた資料や本などを選び、主体的に探究型の学習を進められるようにする。 ○一人一台学習者用端末を効果的に活用し、自己の課題解決に向けて、粘り強く取り組めるようにする。 ○アクティブスポーツやスポーツ月間などを通して、運動に親しみ、自己の目標の達成や体力向上のために最後までやり抜けるようにする。	4 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が90%以上 3 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が80%以上 2 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が70%以上 1 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が70%未満	4 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が90%以上 3 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が80%以上 2 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が70%以上 1 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が70%未満	・授業を参観し、児童がクロムブックの操作に慣れている姿を見て驚いている。一方で、紙文化の重要性を見失ってほしくない。また、効率的に調べるところをすべて否定はしないが、自分で調べ考える習慣を付けることが大切である。 ・目標をもって取り組ませたら、最後に担任や親子で達成度などを一緒に振り返らせるとよい。できたことにその都度声を掛けてあげると積極的な行動につながるのではないかと。 ・学びの原動力は、好奇心だと思うので、児童が自分で正確な情報が得られるように引き続き取り組んでほしい。児童の自主性や継続的な頑張り、結果として高い数値に表れていると思う。	・学習者用端末を活用した授業が多く行われ、児童の活用スキルに向上が見られた。また、内容理解や自分の考えの整理のために、ノートやワークシートに書く活動も積極的に取り入れてきた。ICTとアナログ、それぞれの良さを活かした授業を模索し検証する。 ・児童が目標に向かって最後まで取り組めるように、取組の過程で励ましの声掛けや適切なフィードバック等を行う。また、結果だけではなく、プロセスでの良さを認め、自信をもたせる指導を行う。 ・児童の自発的な学びを促すために、児童の知的好奇心や探究心を喚起させる投げ掛けやきっかけづくりを工夫する。また、自主的な学びを継続できるような学習環境を整える。
	【子供と大人の10+の姿】 学校の姿 教職員の挑戦	【8+プロジェクト】 教職員の挑戦 目指す学校像に向け、チームとして挑戦し、成長を実感する姿	○校内研究会やOJT等、年間を通じた研修機会を設定し、教員同士が学び合うことで指導力の向上を図り、「分かる・できる」授業を展開できるようにする。 ○組織的な取組を重視し、迅速に報告・連絡・相談を行うことで、早期に問題の解決を図れるようにする。またチームで解決した達成感を共有し、成長を実感できるようにする。 ○情報発信・共有の場を拡大することで、家庭や地域との関わりを深め、開かれた学校づくりに貢献できるようにする。	4 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が90%以上 3 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が80%以上 2 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が70%以上 1 どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善を実施する教員が70%未満	4 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が90%以上 3 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が80%以上 2 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%以上 1 児童アンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%未満	・授業が分かりやすいということが何より大切なことであり、90%以上の児童がそう答えているのは、素晴らしい。教員がお互いの授業を見合うことは、良いことだと思う。 ・家庭教育（様々な形態や事情がありますが）の重要性への理解を訴求していくことが、もっと提起されてもよいのではないかと。CSとしても、現状をお聞きする機会を設けられたらと思う。 ・自己の成長を確認できる児童が多いことは、喜ばしいことである。 ・アンケートの結果は、教員の評価、児童の評価、保護者の評価の三者を比べて現状をとらえること良いと思う。 ・ホームページの更新頻度が高く、家庭・地域への情報発信に努めていることを高く評価する。	・教員同士が授業を見合ったりショート研修で学び合ったりする機会が広がりがつた。OJT研修では、授業でのICT活用や理科の実験ポイント、陶芸体験等、教員の専門性を活かした研修を行ってきた。還元研修を含め、指導力向上に向けて学び合う研修機会を充実させる。 ・学校ホームページを毎日更新し、情報発信を行ってきた。その結果、保護者・地域の方から、児童の様子や地域の協力体制等が分かってありがたいとの声が多数寄せられた。また、児童の地域行事への参加率の伸びにもつながったものと考えられる。 ・家庭教育の重要性については、CSでも話題にし保護者とも交流や連携を深める。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿 インクルージョン	【8+プロジェクト】 多様な学びと学び方 自分と他者の多様な個性を認め合い、みんなが安心して表現し、失敗を恐れず挑戦する姿	○道徳授業や日常的な指導の積み重ねにより、自他ともに大切にする心を育成し、良好な人間関係が築けるようにする。 ○なかよし班活動、異学年交流、幼稚園・保育園・障害のある方や高齢者等、多様な人との交流を通して、自分と他者を理解し認め合うことができるようにする。 ○校内研究で説明的文章を取り上げ、授業を工夫することで、どの児童も安心して自分の考えを表現できるようにする。また、間違えによって学習が深まることを繰り返し指導する。	4 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が90%以上 3 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が80%以上 2 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が70%以上 1 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が70%未満	4 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が90%以上 3 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が80%以上 2 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%以上 1 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%未満	・異学年、多様な人との交流を通して、相互理解、多様性の理解を深めてほしい。様々な人たちとの交流やそこで得た経験は、何よりの宝である。パラ、デフ（11～12月 東京デフリンピック開催）の取組を増やしてほしい。 ・「自分の考えを伝えること」の肯定的評価が、74.5%の原因は何でしょうか。自分の意見を伝えることは、大人でも難しいことだと思う。他人の発言に対する心無い反応や失敗を許さない世の中の方が原因の一つと考えられる。そのためには、自分が受け入れられているという安心感のある関係を築く必要がある。地域の大人（特に高齢者）との接点を増やし、大人と話す機会を作ることきっかけになると思う。	・各学年で多様な人との交流を行い、相手の立場や思いを考える機会をもってきた。教育重点目標の「なかよくする子ども」では、保護者からの肯定的評価が92.5%（昨年より+0.9%）であった。次年度も「なかよくする子ども」を重点目標とし、東京デフリンピックと関連した取組をはじめ、多様な他者と関わる取組を充実させる。 ・「自分の考えを伝えること」が課題となっている。自分の考えをもたせただ上で、表現しても受け入れられる安心感や認められる成功体験を積ませることが大切である。口頭に限らず、記述を含めて、一人一人の考えを賞賛し、自信をもたせることで考えを伝える力を伸ばしていく。
	【子供と大人の10+の姿】 学校の姿 居場所・活躍	【8+プロジェクト】 安心できる学校 子供たち全員の居場所と活躍の機会を支える姿	○ひのスタンダードをもとに、どの児童にとっても居心地の良い学級・学校となるように環境を整える。 ○ユニバーサルデザインの視点（時間の構造化、情報伝達の工夫、参加の促進、内容の構造化等）を取り入れ、どの児童も分かる・できる授業を実践する。 ○登校渋り等が見られた場合は、すぐに校内支援委員会を開き、その児童に合ったきめ細やかな支援について協議する。 ○一人一役の分担システムにしたり、いろいろな児童に代表等を経験できるように工夫したりする。	4 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が90%以上 3 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が80%以上 2 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が70%以上 1 子供同士が望ましい人間関係づくりができるように取り組む教員が70%未満	4 児童アンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が90%以上 3 児童アンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が80%以上 2 児童アンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が70%以上 1 児童アンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が70%未満	・約90%の児童が学校を楽しんでいるが、一方で約10%の児童が楽しくないと答えている。その子たちに「楽しい」と言わせるには、どのようなことが必要なのか。CSでも意見交換をしたい。授業以外でも達成感や楽しさを味わえる学校行事はたくさんある。様々な活動を通して、学校へ行きたい、学校は楽しいと感じてほしい。学校で自分の居場所や活躍の場があることについて、高い数値が出ているが、この設問に関しては、もっと高い数値をめざしたい。 ・登校渋りの現状はどうでしょうか。多方面からの情報収集や第三者が入ることで、学校の対応が楽になることもあると思う。	・学校が楽しいと答えている児童が約90%いるが、残りの約10%の児童にどうアプローチしていくかが課題である。授業の理解度や友達との人間関係等、様々な要因が考えられる。学級担任だけでなく、複数の教員で児童の様子を見守っていくこと。また、運動会での選抜リレーの復活等、児童の活躍の場を拡大することも検討する。 ・3日間連続で欠席した場合、登校渋りによるものかどうかを把握し、その疑いがある時は校内支援委員会を開いて対応を検討してきた。SSW等とも連携し、多方面からの情報収集や保護者との小さな連絡を心掛けてきた。実際に登校渋り傾向から登校できるようなった児童が数名いる。当該の学級担任が一人で抱え込んだり、情報共有が遅れたりしないよう組織的かつ迅速な対応を継続する。
社会と未来に開き、みんなで作る	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿 対話・協働	【8+プロジェクト】 子供たちがつくる学校 自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越えて協働する姿	○授業展開の中で、友達との対話を通して考えを深める時間を意図的に設定し、振り返り活動を通して、自分の考えの深まりを実感できるようにする。 ○特別活動や学級活動等で、児童が主体的に話し合う場面を設定する。話し合いでの決定事項に対しては、全員が協働的に取り組めるように支援する。 ○委員会活動では学校に役立つ児童発の取組について、学級活動では学級をよくする児童発の取組等について話し合う。	4 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が90%以上 3 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が80%以上 2 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が70%以上 1 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が70%未満	4 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が90%以上 3 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が80%以上 2 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%以上 1 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%未満	・学校公開では、隣の子と話し合う場面をよく目にした。教師の一方的な授業から対話的な授業へ変わっていることが伺えた。自分で考え、グループで話し合い、他人の意見を理解する。そのような授業をこれからも実践してほしい。コミュニケーションをとることによる相乗効果を期待したい。 ・コスバ、タイパの風潮は子供の生活にも影響を及ぼしている。じっくりと時間をかけて答えを待たせる時間がないことが、教師主導になる構図であると考えられる。時間不足が阻害要因であるが、特に高学年では、児童が主体となる取組が増えることよい。	・対話的な学びを意識した授業が多く見られるようになった。ペアワークを入れることで、話したり聞いたりすることが必然的に行われた。また、ミライシートで一人一人の考えを全体共有する等、学び合いを効果的に進めてきた。こうした手立てが、児童の深い学びにつながったかどうかを評価し、さらなる授業改善に努めていく。 ・児童発の取組を実施するためには、十分な活動時間の確保が必要である。委員会活動等の内容を見直し、設定された時間を有効に活用する。今年度は、図書委員による読書郵便、保健委員による目の健康のプレゼン、放送委員による給食時の放送企画等、児童発の活動に広がりが見られた。今後も、児童発の取組を促し実現できるように支援する。
	【子供と大人の10+の姿】 学校の姿 多様な参画	【8+プロジェクト】 地域共創 様々な当事者から応援され、多様な人材が活躍する姿	○地域人材を活用した学習（旭が丘商工連合会、あさひボランティアによる学習支援、農家の方による栽培活動、地域企業による出前授業・見学等）を推進する。 ○CSによる雑木林の整備、どんぐりクラブの方のご指導により、SDGsの取組や生活科・総合的な学習の時間「あさひタイム」の充実を図る。 ○地域行事への児童の参加や協力等を積極的にに行い、人的交流を盛んにすることで、地域の風が行き交う学校を推進する。	4 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が90%以上 3 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が80%以上 2 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が70%以上 1 地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が70%未満	4 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が90%以上 3 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が80%以上 2 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が70%以上 1 児童アンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が70%未満	・全教職員とかかわりながら、地域と力を合わせて学校運営に取り組んでいると思う。保護者、地域に情報提供を行い、活動の成果を知ってもらうことが必要である。これからも地域との良好な関係を継続してほしい。 ・「地域での活動が楽しい」「雑木林での活動は楽しい」と答えた児童が91.4%ということで安心した。地域企業による出前授業等も推進してほしい。地域には、様々な経歴や経験、特技をもった方がいる。地域の方との交流をどう授業に取り込めるのか、CSでも意見交換をしたい。 ・雑木林は安全面を強化して、もっと活用してほしい。地域の大人、子供も大人も雑木林につどい、活動することが有効ではないか。課題を一つ一つ解決しながら進めていきたい。	・今年度も旭が丘連合商工会、農家の方による栽培活動、あさひボランティアによる学習支援等、地域の方の協力により充実した活動を行うことができた。また、剣玉名人による授業、茶道の指導等、新規講師による授業も実施できた。企業見学等については、先方の事情により実現できないものもあったが、今後も地域活動コーディネーターとも連携し、活動の充実を図っていく。 ・「雑木林での活動」については、蜂対策も含めて年間活動計画の見直しを行った。令和27年度の開校50周年に向けて、CSやこもれび守り隊等と連携し計画的に整備を進める。 ・たきび祭等、参加人数が増え、地域との人的交流に貢献できた。今後も元旦マラソン等、地域行事への積極的な参加を促していく。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。